



## 題名: 江戸っ子から学ぼう!

発表者氏名: 三宅陽菜、岡部真央、遠田珠羽

### 背景・目的

現代の日本では、雇用や子育ての両立等において男女間での格差が問題になっている。未婚率や人口増減の動き等、現代日本との類似点が多い江戸時代と比較して、女性が社会進出するために必要なことを江戸時代の生活から考える。

### すでに分かっていること

江戸時代には、多くの名目上の「親」が存在していた。

日本のジェンダーギャップ指数は0.650(146ヶ国中116位)で、先進国の中では最低である。

### 仮説

女性が社会進出するためには、子育てと並行して仕事に打ち込める環境が必要であり、子供を気兼ねなく預けることが出来る環境を作ればよいのではないか。

### 研究の方法

- ・江戸時代の町民の暮らしについて、文献やインターネットを用いて情報収集する。
- ・2年次の保護者の方々にアンケートをとる。
- ・鶴岡市子ども家庭支援センターの方にご質問する。

- ・酒田市シルバー人材センターの方にお話を伺う。



### 参考文献

「性からよむ江戸時代—生活の現場から」著・沢山美果子 岩波新書  
 「図説 庄内の歴史」著・前田光彦 郷土出版社  
 「学研ハイベスト教科辞典 日本歴史」学研ネクスト  
<https://part.syufu-job.jp/news/solution/2462/>  
<https://president.jp/articles/-/28489?page=2>  
<https://rekishi-style.com/archives/11768>  
<https://www.excite.co.jp/news/article/Japaaan-85712/>  
<https://mirasus.jp/solgs/gender-equality/4440>

### 結果

江戸時代には若者組、娘組といった忙しい親の手から離れた子供が成長する場が家庭外にあることが分かった。

また、アンケートからわかったこととして、子育てをする上で子供の急な体調不良に対応することは難しく、また保育所等の施設は開所時間が決まっているため仕事との両立に不便さを感じている人が多いという問題があった。

### 結論・考察

- ・女性の社会進出に必要なことは、休日・祝日も子供を安心して預けられる保育施設の拡充である。
- ・現状では、子供を預ける場所は保育士等の人材不足により限られているため、新たな視点での人材育成が必要になる。

→根本からシステムを改良することで社会のニーズに合った保育の場が必要!

### 提案(このような施設が必要だと考える)

- ・シェア型のワークスタイルをとる
- ・他の地域企業との連携をとり人材の交流を生み出す
- ・給与として個々に合わせた配当という形をとり地域間の連帯感を強める
- ・預かる側のプロフィールを専用サイトに掲載・SNSなどで活動の積極的配信することによる透明性・安心性を利用者を与える

### 今後の展望

・専門家の方に、考察したことについて助言をいただき、考察の解像度をさらに上げ、充実させる。

・女性の社会進出だけでなく、少子化対策や、地域の雇用面での問題の解消に繋げられるようなより良い提案ができるよう、市や企業と連携を取ってみたいと思う。